

3月9日(火)

Singapore General Hospital

報告:鈴木 亮

---

7:00

PGMI に集合し、耳鼻咽喉科、頭頸部外科病棟での回診に参加することから1日が始まった。気道狭窄、急性乳様突起炎、壊死性リンパ節炎、甲状腺全摘出術後、など20人くらいの患者を約8人のDrがグループをつくり回診した。

8:15

SGH 内にある café に行って、朝食やコーヒーなどを飲みながらその日のお互いの予定を確認した。

9:00

Dr. Gan Eng Cern の外来診察につかせてもらった。

シンガポールではまず GP と呼ばれる一般医が診察を行い、specialist の介入が必要と判断された場合には紹介される。まずは救急外来から耳鼻科を紹介された顔面神経麻痺を主訴とした患者の診察から開始。Dr. Gan Eng Cern が問診、診察をし、レジデントがカルテの記載を行っていた。系統だった診察、画像検査から聴神経腫瘍と診断され、脳神経外科に紹介された。その後 ENT Center に移動し、一般外来診察を開始。午前の診察で1人の医師あたり30-40人を診察するそうだ。外来患者をすべて診察終了するのに14時くらいまでかかることも多く、昼食を食べずに午後の業務にうつることもしばしばだそうだ

慢性中耳炎、難聴、アレルギー性鼻炎、腫瘍、めまいなど、その日も30人弱の患者を診察した。喉頭ファイバーや顕微鏡による処置など、日本と機材はほぼ変わらなかった。14時前くらいに午前の部の外来が終了した。

Dr. Gan Eng Cern につれられてシンガポールの銀座と呼ばれているオーチャードで中華料理を食べた。シンガポールの医学教育、医療体制など日本との違いについて、食事しながら意見交換した。

Dr. Gan Eng Cern は research しなくてはならないとのことで解散となった。

